

## 令和元年度第7回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 令和元年11月26日（火） 午後14時30分から16時00分まで
- 場 所： 京都市立京北病院 大会議室
- 出席者： 理事長 森本 泰介  
理 事 森 一樹，黒田 啓史，半場 江利子，松本 重雄，位高 光司，  
山本 みどり，白須 正  
監 事 長谷川 佐喜男，中島 俊則  
事務局 由良医療政策監，高倉院長，正木副院長，下山看護部長，大島事務管理者・  
統括事務長，北川事務長，折戸経営企画局次長，長谷川事務局管理担当部長，  
濱口経営企画課長

### 1 開会

### 2 議事・報告等

#### (1) 京北病院の現状と課題

資料1に基づき，由良医療政策監・高倉院長から説明

- 特にどの職種の負担が大きいのか。  
→ 高齢者増加により，夜勤の看護職の負担は大きい。課題であると認識している。
- 京北病院に通院されている方の範囲は。  
→ 京北地域以外に京丹波町や美山町から来られる。京北地域の方へは無料の送迎バスを運行している。
- 京北地域の総人口が減っており，今後通院される患者さんも減るのではないかと。京北地域に介護施設等はあるのか。  
→ 特養やグループホームがある。人口減少については，特に若い世代の減少が激しい。
- 京北地域への移住者はいるのか。  
→ いる。田舎の魅力に惹かれた方や，芸術家等が移住されてはいる。  
→ 機構や行政と連携して取組を進めていかないとはいけない。
- 人口を増やす手立てはされているのか。  
○ 行政が企業誘致等を行っており，移住にも力を入れている。
- 看護学校等の目玉がないと人口は増えないのではと思う。
- 京北病院の取組は素晴らしい。入院しなくてもよい政策を考える中，もう少し介護や在宅サービスの道筋をしっかりとされるとよい。
- 入院患者を数名増やせば稼働につながるということだが，入院患者を増やすための具体的な取組はされているのか。親しみのある病院だけでは，入院患者を増やせない。  
→ 入院を増やすために，民生委員の方と連携を行う等，進めていく。  
→ 京北病院が地域の人にどれだけ必要とされているかが最も重要であると考えている。  
→ 無理に辛抱している人は，我慢せずに京北病院に来ていただきたい。そのために，住民にとって病院が親しみある地域であることを引き続き取組を通して進めていきたい。

#### (2) 患者支援センターの開設について

資料2に基づき，森理事から説明

- 従来から同様の取組はされているのか。  
→ 入院支援センターで対応していた。今回，組織を1つにまとめ，場所も1箇所に集約したこと

で、例えば手術前患者の検査の説明や準備を同じ場所で行えるようになり、より患者中心の医療を提供できるようになった。

- がんや脳梗塞等の患者さんにとっては、心強い場所である。
- 各病棟に入退院支援ナースを配置し、これまで以上に患者さんがスムーズに退院していただくような流れとした。
- 11月18日に開設したが、順調に機能している。
- 経営改善にもつながると考えているほか、多職種で関われるので、医師の負担も軽減され、働き方改革にも繋がっている。
- 患者支援センターの構成は  
→ 責任者については、専従の医師が2名、看護師は15名（病棟含む）、MSWは10名ほど在籍している。

### (3) 月次収支（9月まで）

資料3に基づき、折戸経営企画局次長から説明

- 材料費が多い。  
→ 医薬品、診療材料費が大きく占めている。価格交渉を行う等取組を進めている。
- 高額医薬品が多いのか。  
→ 多い。現在、抗がん剤についても、安全性を協議しながら、後発医薬品の使用に向けて患者さんに説明を進めているところである。それ以外にも、診療報酬上の取り漏れがあるので、所属長に対して指示を出している。

### (4) 収益状況月次報告（10月分）

資料4に基づき、森本理事長から説明

- 市立・京北ともに患者数を伸ばすことが課題であると認識している。
- 請求漏れについて、カウントミス等あるのか。  
→ ミスではなく、請求遅れが発生している。
- 各病院の取組はよく分かったが、前年度と比較しても収支が悪化している。課題とされている経費削減に向けて取り組んでいただきたい。

## 3 閉会